この堰は，川の流れが直線で急なため，洪水のたびに流され，たいへんやっかいな堰でした。土地を治める人（地頭）は，人々の苦労をあわれんで毎年堰揚げ（河川をせき止めて水のとり入れを始めること）のたびに，経費の一部にと青銅三貫目を100年間もつづけてくれました。そのため，この堰は「三貫堰」とよばれるようになったのです。

▲三貫堰

新堀堰

むかし，会津高田町では宮川の水を使って田を耕していました。しかし水の量が少なく，とくに宮川の西側の田に水を流すことがむずかしかったのです。それで，1770年，藤川の領家の南にある稲岡堤を水源地とし，水のかれた宮川を横断させて上町に流し，用水としたり，かんがい用水としました。

▲そのころの工事のようす

工事は，年寄りから若い人まで5～6000人の人夫の手でくわやもっこを使ったり，むしろを張って水がもらないようにくふうし，三日三晩かかりました。

いまでは，稲岡堤の水は使わなくなりました。そして，直せつ宮川からとりいれられるようになり堤の働きをしています。